萬葉集巻第十六

有由縁雑歌

昔者有娘子字曰櫻兒也于時有二壮士共誂此娘而捐生捨競貪死相敵於是娘子歔欷曰從古至今未聞未見一女之身往適二門矣方今壮士之意有難和平不如妾死相害永息爾乃尋入林中懸樹経死其兩壮士不敢哀慟血泣漣襟各陳心緒作歌二首 姓名未詳

春去者 插頭介将為跡我念之櫻花者 散去流香聞

妹之名尓繋有櫻花開咲者 常哉将戀弥年之羽介

或曰有三男娉一女也娘子字曰縵兒也嘆息曰一女之身易滅如露之雄之志難平如石遂乃彷徨池上沉没水底於時其壮士等不勝哀頽之至各陳所心作歌三首

歔欷 玉篇云歔欷歎也 又啼貌 経死括云縊死

祇抄 哥林良枝 ○按 哥林良枝云 昔有三男人 哥林良枝云 昔有娘子 哥林良枝云

3790 3789 3788

姓名未詳

無耳之池羊蹄恨之吾妹兒之
みゝなしの池しうらめしわきもこか
来乍潜者水波将涸
きつゝかつかはみつはかれなん
(将涸イひなん)

足曳之山縵之兒今日往跡
あしひきの山かつらのこけふゆくと
吾尓告世婆還来麻之乎
わにつけせはかへりこましを

足曳之玉縵之兒如今日
あしひきの玉かつらのこけふのこと
何隈乎見管来尓監
いつれのくまをみつゝきにけん

三人乃男ありて一人乃女をよはひけるに女の名を
かつことあたはん云ける
此女思ひて一女の身ハきえやすき事露の
ことし三雄の志乃平きかたきをうれふこ
ころにいひて終に耳なしの池に投て
身をなけてうせぬこゝに三男此を悲み
云よりて同く讀る 無耳同

みゝなし乃池しうらめし
何しひきハ山かつらのこ
女の命ともありし日女うせし
何しひきの玉かつらのこ 無耳同

八雲抄云無耳池大和 万 将涸類聚ホカレナン 哥林ヒナン

たふゆくとハ此池に女のゆくへ ゆのことへとこハ此男 女うせしかは我に告て ゆくまて女をやらしと
何しひきの玉かつらのこ 無耳同かつらを傳ふるにしに山かつら

讀るともいへり二条院乃御夢にハ玉かつらのことありし山と同韻わたくし山と
同したる也と注せしあり 玉葉此注とハ仙覚抄之二条院乃御本ハ清輔朝臣
奉勅臣ととも但師説臣乃ハ山乃かつら 葛ハ山よりあれハ山乃玉かつらとし
このわかくらのことこハ乃ゆく我らのかつらの 來るを見てかこそに
心をみしかしこらく此女いつまのよなとなりてきてうに流れんとこ

竹取翁 或本たかとり
のおきなと點ス和式
判詞ニにあるやと難
六百番哥合ニ俊成
せられぬ又竹れ乃
物語よりみけるをと
みり但大和物語ニ塩
川百首等にハよりの
とありと讀りまたの
中務後成ての説
なと付てたかとりとて讀

昔有老翁號曰竹取翁也此翁季
春之月登丘遠望忽値煮羹之九
箇女子也百嬌無儔花容無止于
時娘子等呼老翁嗤曰叔父來吹
此燭火也於是翁曰唯唯漸趨徐
行着接座上良久娘子等皆共含
咲相推讓之曰阿誰呼此翁哉爾

叔父老翁とよみ給非慮之外偶逢神仙
仙迷惑之心無敢所禁近抑之罪希
贖以歌即作歌一首并短歌

竹取翁

緑子之若子蚊見庭畜乳為
冊所懐穉穉平生蚊
見庭結経方衣氷津裏冊縫服
頸著之童子之見庭結憐之
袂著衣服我矣冊因
何四千庭三名之綿蚊黒
髪尾信擲持於是蚊
舎取来擧而裳纏見
津蚊経色冊名着来紫
解亂童兒冊成見羅冊
大綾之衣墨江之遠里
小野之真榛持冊穂之為衣冊
狛錦紐冊縫着刺部
童部波累眼打十八為
麻績兒等蟻衣之寶之子等
蚊打持者經而織布日曝之

朝手作　尾　信中裳成者之ヲ冊
あさてにを　ひさもあせ　ちまこり
取為支屋所　經　貊　ヲ丁女蚊
妻問　迩　我冊所來為　彼方之
二綾　裏沓　飛鳥　壯
みこあやうらうらあすか
士蚊霧　禁　縫為黒沓　刺　佩
而庭　立　住　退莫立　禁
尾迩女蚊髣髴聞而　我冊所來為水
縹　帶尾引　帶　成
絹　冊取為　海神之　殿
韓　帶　冊飛　翔　來
蓋　為輕
みけ

腰細冊　飾　氷真十鏡　取
雙懸　而已蚊景　還氷見作　香
避　而野邊尾廻　者　面白見　我矣
思經蚊狹野津鳥　來鳴　翔　經
秋葉　而　山邊尾徃　者　名津蚊為跡
我矣　思經蚊天　雲　嘗行田菜引
還立　路尾所來者　打氷
刺　宮尾見　名　刺　竹之
舍人　壯　嘗　忍經等氷　還等氷
見作　誰子　其迩哉　所思而在

3795 3794 3793 3792

是まで竹の翁の作る
歌也 童翁は舎人
男女にも我いかゞ当
とかくいふやうなり
是は誰ゆゑとゆふ
なりまとはし
かくぞしこし かくぞ
おもふ也
いにしへのさゝきし
是寧古は稚れと
いふ也
いさにとや 誅の字（イサ）
いにしへのかしこき人も
仙日周文王太公望を
見付て車に乗せて宝
にかへりたまひし是あり

如是所為故為 古部 狭々寸為我
かくぞしこし いにしへの さゝきしわれや
端寸八為 今日八方子等丹
はしきやし けふやもこらに
五十狭迩迩哉 所思而在 如是所為故為
いさにとや おもはえてある かくぞしこし
古部之 賢人藻 後之世之
いにしへの かしこきひとも のちのよの
堅監将為迹 老人矣 送為車
かゞみにせんと おいびとを おくりしくるま
持還来
もてかへりこね

反歌

死者木苑 相不見在目 生而在者
しなばこそ あひみずあらめ いきてあらば
白髪子等丹 不生在目八方
しろかみこらに おひざらめやも

白髪為 子等母生名者 如是
しろかみし こらもおひなば かくのごと
将若異子等 所詈金目八
わかけんこらに のられかねめやハ

史記 蒙求曰文王乃齋（モノイミスルコト）三日田（ヤリス）於渭陽二卒見ル太公ニ坐シテ茅ニ以漁ス文王勞而問之乃載與（トモニ）歸ル
かゞみとハ後代のかゞみのことし又
りとこハかゞみくさとかこ通ふと云ハ後代の明鏡のことく
とふにいふあひたをと世をとハ子孫のまねにて死なハその白髪
なりと作りめりせとハなりハ白髪乃生まらんやこゝら九の子らに
きてのせんこともなのまゝとハ楚しく嫁なるこてもと白髪
せんきはまたくなりハかゝのこゝくよりかんことく嫁はれんこと
はしきやしおきなのうた
おかしきハ多（ヲホ）ミつき
也九人のまくわれハ之
かゝみてハかいハ發語
ゆくゝかみてと云
ちしきやしハおもしろ
詠義の奇ふ有り
なるを出いたるを

和歌九首 娘子

端寸八為 老夫之歌丹 大欲寸
はしきやし おきなのうたに おほゝしき
九兒等哉 蚊間毛而将居
こゝのゝこらや かまけてをらん

辱尾忍 辱尾黙 無事
はぢをしのび はぢをもだして ことなくも
物不言先丹 我者将依
ものいはぬさきに われはよりなん

おのが相推譲之日間
誰呼此翁哉とよる九女
皆恥て義を抱いひ出
されぬ人のこゝろ
さきた我まつ山蔭
近付ようんと

うつゝなうんん
うハ諾乃宮も和
やとゝもし於ハ母
なれいそよ〳〵
すとくゐひ後んと
きゝもいつきも母宮
おの心かいようと
あゝぜんとそういい
はゝさめふようんと
ゐもゝすゝめる

否藻 諸お藻 随 可敷
欲
顔 所見 我 我藻 将 依
左藻 生藻 同 心 迹 結 而為
友八 遣 我 藻 将 依
何 為 迹 遣 将 居 否藻 諸お藻
友之波 我 賞 将 依
豈藻 不 在 自 身之柄 八 子之
事藻 不 盡 我 藻 将 依
君田 為々す 穂庭 莫出 思 而 有
情 者 所知 我 藻 将 依

兄妻ニ可為ものゝ
義乃ゝ
らりのをさのチいけ
そゝすきゐいつと
ふるひくを云素
人こゝ山陰の萩かうゑ
自ゐと我いゐもゝ
きたゐすゐ一人うら
えチ自ゐそゐんと
まのれゐ妻ゐ
多ひる友をのゝう我もうんと
ゐゐ〳〵松より義ゐうまゐ

墨之江 岸野之藤 冊 冊穂所絶 迹
冊穂葉隠 我 八冊穂 水 而 将居
春之野乃下草 藤 我藻 依
冊穂水内 将 友之 隨 意
者所知

昔者有壯士與義女姓名也不詳二親竊爲交接於時娘子之意欲令親知內作歌詠送與其夫歌曰有若歌未得探

娘子

隱處未出來日顯之

求也乎戀辛苦山葉從

有知何

昔者有壯士新成婚礼也未經幾時忽爲驛使被遣遠境公事有限會期無日於是娘子感勤懃悒沉卧疾疹累年之後壯士還來覆命

感懷情悵

覆命 勅使

既乃詣相視娘子之姿容疲羸甚異言語哽咽于時壯士哀嘆流涙裁歌口號其歌一首

是乃有家流物平 姓名未詳 橘名川之奥平 深目而 吾念有來

歌一首

娘子

烏玉之黒髪 竹沽而 漆雫之 琴也 來座 幾許 懇者

猶豫 ためらふ

時雪落故作冰雪包
傳曰時有女子不知父母竊接壯士也壯士悽惕其親呵嘖稍有猶豫之意因此娘子裁作斯歌贈其夫一首 姓名未詳

事之有者小泊瀬山乃石城尓母隠者共
あをによし奈良の山なる山のはの
かにもかくにも吾は思はなくに

傳曰葛城王遣陸奥國司之時國司祇承緩怠異甚於時王意不悦怒色顯面雖設飲饌不肯宴樂於是

大伴宿禰諸兄奏之
祇承 王命を受けて承ること
うけたまはりとこと
飲饌 酒食
をしもの 持来 酒を持
あさりこし 来
序奏 安積山の奥
列心 意心 陳きこと
我いもいねよかしと
恋ひみだれやんと
祇承 古今集の今の祝詞
よみ
かしこまりうけたまはること
ありのまま
古今集の今の祝詞
よみ
かしこまりうけたまはること
ありのまま
みだりがはしくすることなく
みだりがはしくすることなく
おろそかにすることなく
おろそかにすることなく
かしこまりうけたまはること
ありのまま
古今集の今の祝詞
よみ

安積香影副
あさか山かげさへ見ゆる山の井の
浅き心を我思はなくに
井之淺念莫國

有前采女風流娘子尓手捧觴右手持水擊之王勝而詠此歌
尓乃王意解脱樂飲終日

姓名未詳 許見
あさり

傳云昔者鄙人姓名未詳也時ニ鄉里男女衆集野遊是會集之中有鄙人夫婦容姿端正秀於衆諸乃彼鄙人之意弥增愛妻之情而作斯謌賛嘆美貌也

すみの江乃
墨之江小集樂つゝ亦出而
已妻
すみの江乃
尚乎
鏡
登見津
藻
はゐよせ
寄
すゝ
玉藻
かりをも
苅
こゝろ
心
ゆるすな
緩
わかせこ
我背子
我
おもふ
念
こゝろ
心

万十六 九

らのよく續こゝらそも人なびけむも有所幸娘子いつまの浦回乎や帝乃宮ふあつれゝとよめるかの如くなるもの

えあふ云ひきかりもすものこゝろ商ひをせんとて云ふ心ならんをも妻をもまうけんとて云ふ意なるべし

正身ニて夫の男をいふ

傳云時有所幸娘子姓名未詳寵薄而後遷賜寄物俗云可於是娘子悠恨聊作歌獻上

姓名未詳

商變領扁跡之御法有者許曽

わきかりもすものかあらなくに
吾下衣
わかせこ
我背子
我
賜
米
わりもちてこゝろもへなく
又

傳云昔有娘子也相別其夫望戀經年時夫君更娶他妻正身不來徒贈裹物因此娘子作此恨歌遷剛之

姓名未詳

ほのちひをそふかと　味飯汁水尓醸成
古ゝ衣をかみて酒作　吾待之
こゝあこゝ酒をかみおく　代者曽無　直尓之　不有者
小右手持水と酒我　
待代らてそ酒作　
もあきこゝてみおら　
ねゝこゝ他妻を心　
病疹　蓋篇ニ病ハ疒ニ
病也　疹疫ニ同熱疫也
泉路　黄泉ノ
登時逝没　其時死也
さかりこゝ　君をかも
ゆくらんとそ　
そ支君ら沖訶そ
久俾もこすと

傳ふ時ニ有娘子姓車持氏也其支経
等序不往来時娘子係戀傷心沉卧
病疹痩羸日異忽臨泉路於是遣使
嗅其支君来而乃歔欷流涕口號斯
歌登時逝没也

車持氏關名

さかりこゝ　君ら今こゝ　之三言　玉梓
ほのもこゝねゝ　不来者憶　病吾
使のみこゝねゝ　やもわら多一つそ

なりひやも　そひあやみ
わりこゝ
神ゝもかゝりとも　神小
と祈ゝもこうと
うこゝす　垂甲と焼て
破やうみて　人卧小為
うこゝもの　そゝ小拝也
垂死ねる者小　神
ゝもいのるら　毎のト
こすると
垂ゝくゝ　垂ゝまる
多ゝこそりり　多保
こゝ　垂ゝ尓　垂ゝ尓
君らわをとゝ　君らわを
とゝりもゝ乃古ゝわさ
りかゝ死ねまし　我

千盤破
ちゝやふる神ゝもなりとゝ　莫負　ト部座
亀毛莫　痛
かゝりお焼ろ　垂ゝくゝふるもりろ多ろ　吾曽
伊知　尓漆　保里　村肝乃
いちしろゝ多ゝみてりりもゝの
碎　而　将死
心ろけゝく　垂ゝる人命　かそうふ成ね
と支は　君可　吾半　喚　足　千根
君らわをとゝふ　こゝちねの母
御事歎　百　不足　
ゝけるろこゝす　やそうちあるな
ゝ　石　ト　應死
おけみをうこゝふもろろよ　垂ゝん
吾之故
わりよ

反歌　ト部

八十　衢　占雖問
うこゝもやそうちあるもうこゝと

君乎相見多時不知毛
きみをあひみるまねくときをしらずもそ
吾惜雲不有
わが命をしくもさほつくもあらなくに
君尓依而長欲為
きみによりてながくほりする
侍去時有娘子夫君見棄改適他
氏也時或壮士不知改適贈歌而
請女之父母乃竊以改適之縁也
贈歌一首 姓名未詳
真珠者緒絶為尓伎登之
しらたまはをたえにきとかいふしかも
其緒貫吾
そのをぬくわれを
擅為
ゆるすなわれを

答歌一首 姓名未詳

白玉雖緒絶者信
しらたまはをたえにきとしまことしあらば
其緒又貫人有
そのをまたぬくひとあらなくに

宴飲之日酒酣之時好誦斯歌
以為恒也 穂積親王 藏而師
家有
いへにあるひつまで
櫃鏁刺
ひつにさしこめて
奴
やつこ
懸而
かけて
束見
つかねみ
吾乎
われを
布吏尓
ふりにし
吠而
ほえて

宴居之時彈琴而即先誦此歌
以為常行也 河村王
可流羽須波田盧乃
かるはすはたのもしにわがせこが
二布吏尓
ふりにしころも
所見
みえつつもとな
吾兄子者
わがせこは

田廬者多ク吏世也

朝香火之乃鴨川津之努比管有常持告兒毛欲得
吾乎比久奈利

宴居之日取琴登時必先吟誦スル此歌ヲ二首

小鯛王或名置始多久美

暮立零者

ゆふたちの雨打ふるし青柳の糸の乱れ時かも

草花之

指柴乃

なでしこが花の末ごと見るごとに

攙於母保遊

夕附日さすや庭草白露の

平可之宜美諾所用来

おくてをとりてみるぞかなしき

ユフツクヒ

夕附日さすや庭草白露の

仙台ニテ

ハ此ノ歌ヲ誦スルコトヲ

哥ヲ聞ケバ但ノ字ヲ用ヒタルヲ以テ見レバ此ノ二首ノ哥ハ地形乃ヨロシキヲ感ジテ作レルニヤ

所訛 けさらしいき

司馬相如ノ琴心訛ニ

早文君ニ

よきおりかもなねさらばよ八十娘よりよき人乃ありけるものを

所訛ヲ

よき人乃ありけるものを

時ニ有娘子姓尺度氏也此娘子不聽高姓美人之所訛許下姓麗士之所訛也於是裁作此歌以嗤彼愚也

何所兒部女王不飽矣坂門等之

美麗

よきひとのよしとふことをよしといへばよしとらずと

角乃

布久礼介四具比

相

よしといへるよしとあしといへるあしとをあしとをよしとをしひらくらん

古歌一首 作者未詳

吾亭宿之

橘乃寺乃

橘乃寺乃黄葉乃

ちりまがひ

ちりまがひ

鬼ニ託テ角ノ額ニ

小兒四五人
相ハかみ
橋乃寺ニ長谷
又安云うめいろ
男としてそう女ニ髪
上うんの女乃好く
男をするとハ
橋寺ハ七ツ
捨ゑ云菩提寺号橋
寺志度道場上西
海人立之
橋乃て作る屋 童蒙抄云おく屋ハ海ノ屋ニうまひとやと云
也ニ云ハ類聚童蒙抄ニうまひとやと云ハ橋乃事ニて
昭ニ云ハ乃ニ我ニおもし 童蒙抄云おく乃字ハ誤ニて
おく乃字ハ誤ニて
夜漏 漏刻乃事ニて

童女 波奈理波 上
うなゐそなりハ髪のけうんり
推野連長年説ニ曰夫寺ニ者不在
俗人寝處ニ亦補弱冠女曰放髪
卅笑然則腰句ニ已去放髪卅者
尾句不可重云若冠之辞哉改
云橋のてまる 吾章宿之
字奈為放 挙
うまひそなりハ髪おけうんり

傅曰一時衆會宴飲也於是夜
漏三更所聞狐聲禹乃衆諸
誘奥麻呂曰闌此饌奥雑器
狐聲河橋等物併作歌者即
應聲作歌一首
長忌寸意吉麻呂
等 擽津

刺 名倍
さすたの
擔橋 従来 許武
ひりこんさつ
詠行騰蔓菁食薦屋梁歌一首
長忌寸意吉麻呂
食薦 數 蔓菁 煮将来 探 尓
すことしきあやおりてこうつりハ

我すたのひと
奥麻呂 意吉麻呂会
さすると小湯わりせ
仙曰さすると小湯わりせ
ひきりハ狐之雲
擽津ハ名所ひて
ハ橋乃本ニ橋わり
きつねおもしんハ狐
ふのみずんしそこと之狐
五束和名云銚子甘土
四聲字苑云銚焼器
似鶴頸而上有鋺也
唐韻云鶴頸溢器
すことしきあを菜
乃安あやおりてこうつりハ
きすき菜煮てしてま

よとしも吾栗むらしさ
行騰 勝 聴而 息 公
枕場馬上ちとの時乃
此
異し鹿草木そしする
へすとも薦斗も
そちすかハロくこそ
おこせまつハハ母の化
ちゝ名心沫の蓮ハ
くこそのれ和
り家ちる八草枕成
へとおれもの
ハ師子ハのさ法
し
いちふたゝめのこゑも
双六乃塞を云ふる
香塔 此題ハ奇も

詠荷葉歌一首

長忌寸意吉麻呂

蓮 如是 有物 意吉麻呂之
家 在 物 者 芋毛乃
へるものそ

詠雙六頭歌一首

長忌寸意吉麻呂

二之目耳
一 不一有 六 乃 佐廢
倍 雙
四さへそろりすろのさい

詠香塔厠屎鮒奴歌一首

香塗 流 尓 莫依 隅乃
かうぬるる塔うちあらりすら乃
屎鮒くめる 喫 有 痛 女奴
詠酢醤蒜鯛水葱歌一首

長忌寸意吉麻呂

醤 酢尓 蒜 都伎合而 鯛 頼
吾 尓 加 所見 氷葱乃 煮物
詠玉掃鎌天木香棗歌一首

帚 刈 来鎌 長忌寸意吉麻呂
麻呂 室 乃 樹與

（前略）おほしめのうたとかさもりんこ
（大鷦鷯）
（笠）
物云著（いき）といふ事を
もめてをこりふをとこ一方帰ときくやいなや
云男注但八雲御抄ふるかさもりんこ
ときこしかり又被著（きせ）てもる帰とりつめ山ふの方心いつまで
ふこそもるとと妙子のくちのふ帰のほし雲やへ雲の清流よりふ
ふ帰を俗ふすよりやうとりつまる只乃帰を刈とりふこ
はいこそ哭ろとふ童れ名と揃ようそよめるやや
けりふの力士舞
兄安云池神八寺乃門にある
や力士八寺乃門にある
二王也自昔名れをふいともちてこれ寺の
枝をふこるとを洋（ながす）
とよめる　雲栗金
剛力士皆鉾と持給

詠（よめる）白鷺咮（くちばし）未飛歌一首

池神力士　長忌寸意吉麻呂

けりふのまさきの
鉾咮（ほこくち）持而飛渡（もちてとびわたる）白鷺乃（しらさぎの）
をこりひともちふくそわたるこんん

詠数種物歌一首

（おもしろの）

かふこもちのこりふ
ふりうけ刈とりふ
そけふ屋遠麻礼（やとおまれ）
日本紀第一日陰放（ひかげ）
屋於新宮（やにいみや）山訶（やまか）
記（しる）ふるひふ一兄安云
掃造刀自刀負女乃（はきつくるとじとふをめの）
女（むすめ）為員今按謂（なすとおもふ）老女為習（おいめならふ）字従（あざなにしたがふ）
自也今訛以員為自欤（おいをもてかずとなすか）
詠数種物歌一首

（よめる）

（辣韮）　忌部首（いんべのおびと）黥（さけ）名

（薤）　刈除曽氣倉持立
麻礼（おれ）掃（はき）造（つくる）刀自（とじ）
屋をふすけふくふんん

東和名云莫刀（なとり）俗作（ぞくさく）刀自（とじ）列女傳云古語（こご）
婦人（ふじん）之（の）美稱（びしょう）也（なり）

詠数種物歌一首

境部王（さかいべのおう）穂積親王之子也

（亦）　（葉）
虎（とら）乃尾（のお）乎（を）越而（こえて）青（あお）
鮫龍（さめ）乃（の）皮（かわ）張（はり）　（将来）
欲（ほし）毛我（もが）
ようめてこんもをもこ

一首

作者未詳

成棄 寸三二 衆嗣延田葛乃
あつめきゝみかのそつきさゝふるものゝ
後毛 将捐 跡 葵 咲
のちもありんこゝあゝいかさく

[万十六 十九]

或人曰新田部親王出遊都裡御
見勝間田之池感心中還自彼池
不忍怜愛於時語婦人曰今日遊
行見勝間田池水影蕩々蓮花灼
灼可隣断腸不可得言尒乃婦人

ありきつめきみかおやつき
兄安云おやこのねと
よめる奇也あそつき
ハ並とりの心し或説
云きみも泰を惹うり
あねとそつくり養赤
並とり河かうへねと

ハつゝりこ乃池ハ
仙曰新田部親王ハ極め
て大酔ゆてなりけ
る也神祇曰
新田部親王ハ天武天
皇第七皇子也天平七年
九月薨帝王系圖云白
鳳九年十一月依皇后
病造藥師寺ら或
人ト作ハつゝりの池
ハ寺名ハ西京某師
乃語ト作ハ
誤歟寺枕小ハ下総ら
誤歟ハ彼寺の近き程の地ら
ト作ハ彼寺の近き程の地ら
ら乃今ハ寺ら如乃相てよめら

作此戯歌專輒吟詠也
姓名未詳

勝間田之 者 知 蓮 無
かつまたの池ハ我ら
然言 之 鬚 無
ちういふ君ら
ひけあること

謔侫人歌一首

奈良 博士消奈行文大麻呂

あゝ山乃こゝて拘のみなりに
左尓毛 右 侫 之友
さふもしけゝもねもけ人の
兒手 両 面 尒 奈

あ〳〵山乃こけ乃衣の袖可連乎奴礼天毛
人乃伊波奈久尓可安良武
右兵衛　右乃尉もと
府家　兵衛府乃曹司
佐乃乃家もと
府官人　紫乃尉志
府生もと

傳云有右兵衛姓名未詳多能歌作之藝也時府家備設酒食饗宴府官人等是饌食盛之皆用荷葉諸人酒酣歌舞乃誘兵衛云開其荷葉而作此歌者登時應聲作此歌一首

久〳〵乃
心波

無心所着歌
八雲おもふ
そらおくよめも
するさもなさ
わさもこひいそ
山二首常忘不思乃寺
ある〳〵と仙覚さまの
説を付乃すべく
もしかすべく
王乃よ〳〵ある
と俊る者あ〳〵ハ
残帛といせんとの

右兵衛　姓名未詳
之　毛落奴可連
乃　似将有見
溝在
無心所着歌二首
舎人親王令人侍座日或有作
無所由之歌者賜以銭帛時乃
作斯歌献上登時以所募物銭
二萬文給之也
大舎人安倍朝臣子祖父乃
吾妹兒之額尓生雙六
わさもこひいかにかもせん

3839　3840　3841　3842　3843

まひくしえ年せ之ゆ
仙覚ハよしといへるにや
妹か額にはえる双六のさえ
ハ牛乃角のあの上乃瘡なり
にあいあまたるもしかの
牙もし又安云これハ不乃よし野とハたけある石乃よりとはたる
也　平素にいふさきさこ八和名云史記田司馬相如著犢鼻褌　韋昭曰今
三尺布作之形如牛鼻者也　唐韻曰松ハ小褌也　漢語抄曰松子ハ毛
ノシタノタフサキ　略注哥乃心ハそしもよるところなし　ひとうさ
くわるをハ毛おかつれぬましろくむかしのよくり

事負乃牛之倉上之瘡
こといの牛のくらのうへのかさ

吾兄子之犢鼻尓為流都夫礼之吉野乃山尓氷魚曽懸有
わかせこかたふさきにするつふれいしの
よしのの山にひをそさかれる

嗤咲大神朝臣奥守歌一首
池田朝臣　闕名
寺々之女我鬼申父大神乃
男餓鬼被給而将播良
てら／＼のめかきまうさくおほみわの
をかきたまはりてそのこうまはん

嗤咲大神朝臣奥守ハいとくやせ
たるを池田朝臣
おさへわらひて
よめるなるへし
まくらのわりさ

報嗤咲歌一首
大神朝臣奥守
佛造真朱不足者水渟
乃阿曽我鼻上乎穿礼
佛つくるまそほたらすハみつたまる
池田のあそかはなのうへをほれ

古へ寺に餓鬼を作
置ける集哥に大寺の餓
鬼乃しりへにぬかつく
とよめるにて知へし
大神朝臣やせたれハ
男餓鬼と男にあり
て其子胎（ハラミ）んとよめる
佛造るあく丹にて
又安云佛を赤くさ
すハ平素丹土を
なり出る池こ八る
報池と云ふ池田
朝臣鼻の上赤くいふ
をも笑ひくへしるに
わらわへし草はか
童蒙抄云八穂蓼

嗤咲穂積朝臣歌一首
平群朝臣
小児等草者勿刈八穂蓼乎
穂積乃阿曽我腋草乎可礼
わらはへともくさはなかりそやほたてを
ほつみのあそかわきくさをかれ

和歌一首
穂積朝臣
何所曽真朱穿岳薦畳
いつくにそまそほほるをかこもたゝみ

也八ツ穂の亭る蓼（タデ）乃ものゝ如曰種の牧
名云ふ中八種蓼
ことごとく種類ゝ八
人乃姓ゝ多人乃勝ゝ
香のそれ〳〵傳る
いつこあそ乃名乃並
もゝそ、隣とつくる風
記日本紀景行天皇将
ことゝ要一ふりの山の旬（タヽ）ノ
叫ふるそも平群乃
郡を鼻上あきと須乃
うえゝむのひとの大ふろ
ひとのおとも世人ふ曰
くもまことの五畢の
イ本の抔ふりゝゆ（ヒ）
こゝ乃氏る土師乃 土師氏八土中く拘氏る者也駄を也造る〳〵土師

平群乃阿曽我
へふりあそふ鼻乃上をわれ
嗤（ヲ）咲巨勢（ユゼ）乃朝臣豊人（トヨヒト）黒色（クロ）歌一首
土師（ハジ）乃宿祢水通麻呂 字志婢（キヨミチ）（シヒ）
爲之 斐太（ヒタ）大黒 毎見
うえゝむのひとのおふふそふることゝ小
巨勢乃 小黒之 所念 可閙
こせ乃とをふのおもふゆるふふ
斐太（ヒタ）乃朝臣嶋村（シマムラ）大丈之男也名字未詳
答歌一首 巨勢（コセノ）豊人（トヨヒト）字正月（ムツキ）
造駒 土師乃志婢麻呂 有者
こまはそふるそふ乃とひまふわれ
諸 欲 将有 其黒色
さもふりふんふふ乃名いふも

宿祢水通（スクネミチ）乃色白き人ふれゝとをふふそふふやゝ
ふふ〳〵ふふひけの
傳の鬢の剃（ソリ）乃
ふふくもまをあふけ
る事ゆゑふふも
こゝ八法師ゆゑひさ
ふふまことの心ふ
檀越（ダンヲツ）やふふもあふひふ
人安云檀越八檀那也
ふすゆゑす日課（ニチクワ）
傚（ナラ）をひくせむ
也里東ふふふ八
せめふふとふれもふ
ふふとゝ八課傚（ナラ）をゝ
ひてせめふゆゑふ
ふ痩（ヤセ）成へふれゝさゝ

戯嗤僧歌一首 作者未詳
法師等之鬢乃剃擬
ふふふひひふふふなる
痛勿引 首 僧 半 甘 繋
ふふかひふふふふふふ
嘲（ワラフ）僧歌一首 僧名字未詳
俄（ニハカ）越（ヲツ）戸等我
檀（タン）也然 勿言
ふんをふふやふふふふひふてふふふ
課傚（ナラヒ）ゆゑす 徴 者汝 毛 半 甘
えふとふふふれもふふふ
夢裏（ユメノウチ）作此戀歌贈（オクリ）友覺（サトリ）而誦（ヨミ）之（ス）
荒城乃子師 忌部首黒麻呂
何き西の主ふ田乃稲をふふふて 平倉尓擧藏（アゲクラニ）而

阿奈干稲干稲志吾良久者

あなひねひねしわかこふらくハ

書河原寺之倭琴面厭世間無常歌

三首 作者未詳

生死之二海乎厭見

いきしにのふたつの海をいとひみて

潮干乃山乎之努比鶴鴨

しほひのやまをしのひつるかも

世間之繁借廬尓住々而

世乃なかの志けきかりほにすミすミて

将至国之多附不知聞

いたらんくにのたつきしらすも

鯨魚取海哉死為流山哉死為流

いさなとり海やしにする山やしにする

死許曽海者潮干而山者枯為礼

しねこそ海ハしほひて山ハかれすれ

あなひねひねし

あらき田ハしゝ田の

八雲抄ニあらき田伊

勢万しゝ田とニ出せり

猪鹿乃付し田といへる

よしハうらそとし

しゝ付し稲ハ落る

つゝとももろとも

ひい給て序きせ天

説あれと八雲をよしゆ

いきしにの二乃海を

八雲抄ニ冥途を潮干

山とゝて生死流転を

いとひて浮世を離れ

をしらひ山を無と云

世乃中乃はかなきをいふ

生老病死等これうきよのかりほを世乃中志けきといへり夢幻乃此身をしけく

く住むるとの庵りに住ミてとくとくしてもかく厭離すへき穢土にしても執着

するを住くてと云し いたらん国ハ浄土をいふ

いさなとり海や 旋頭哥也 いさなとりハ海をいはん枕詞也 海山ハ死せぬと

云ハ海ハ潮干山ハ木枯なとに死するよし 山海さへ志かり 況や死なさらん

ものやと 或本ニ此哥をこや乃山乃哥の次ニ無常歌と題して出

藐姑射山 荘子逍遙

遊篇云藐姑射山有神人

居焉 又云堯治天下之

民平海内之政往見四子

藐姑射之山汾水之陽

註山海經云藐姑射在

海外 奥儀抄云堯帝

藐姑射山歌一首 作者未詳

心乎之無何有乃郷尓置而有者

心をしむかうのさとにおきてあらハ

藐姑射能山乎見末久知香谿務

はこやの山を見まくちかけん

位をのかれて姑射山ニ住給ひしかハ すミやをはこやの山といふ

八雲抄云すミやの山 山乃名ニあらす 只仙洞をいふこと

心をしむかうのさとに 奥儀抄云荘子にいへる無何有之郷也 八雲抄云

ふうりのさとそこハをのおのそれ〳〵ねがふ事をいのる也 倩荘子ノ逍遥遊篇ニ云無何有之郷廣莫之野陸方壺云寂莫虚曠之地喩道之本郷ニ林希逸云言造化自然至道之中自有可樂之地也そこや乃山おゝ注ス山号乃心ハ我心を万物よさしらす寂莫虚曠乃如き至道乃中ふみつゝ神人乃住とふまてもなくしてあり仙境なり来ひ〳〵イ本ニおりやさおらりとゝふ旋ス号と山号おはせり

仁教之子 仁明教之男子

喫飲 くひのまし

ゑまろよ我抱ます 乃安云石麻呂ハ人の名也ひなきハうるおさのかみ

麻呂尓吾

名ろよわをは 吉跡云物 曽武奈伎取

大伴宿称家持

痩尓食

やせくもいけるものをはかなくもしにやしなましものそなきよのつね

有吉田連老字曰石麻呂所謂仁教之子也其老為人身體甚痩雖多喫飲形似飢人因此聊作斯歌以為戯咲也

痩々生有者将在平波多也流加

やせ〳〵もいけらハあらんをはかなくもしにやしなましものそなきよのつね

食此云喪也

報詔歌一首 吉田連老麻呂

痩々生有者将在平波多也流加

やせ〳〵もいけらハあらんをはかなくもしにやしなましものそなきよのつね

詠數種物歌二首 高宮王

尓延 於保登礼流屋 葛

あちこちのをにさはにおふるくずのはのうらもとれともあかぬかも

絶事無 宅 将為

たゆることなくみやつこかわさ

蓼蘿門乃作有琉小田 喫 烏

たでのはのうすくれなゐなるをとめらかくちふさのごとき

瞳尓居 瞳而 慣

ひとみにをれるをとめをあひおもはなくに

東都名妓某甚好事倦
去蛇結又云細子草者
八路々々のごとくの序意
そゝのかしのごとくなる
仙台婆羅門云々知ぬ
ゆき者とれいたら
呪志垂てる田もとゝむ
為のごとくまず
暗く惨々こゝ居て思
こと兄妹驗膚ハまお
おもたれてとこゝ或
説てわこれ院よ
寔懇を惜分る
本もとゝこゝこゝ
夢裡相見 遊仙窟云要見十娘驚覺撲之怱然空手この例
ひとめとうもあるゝ

傳云佗為王有辺習婢也于時宿
直不遑支君難遇感情馳結係戀
寔深於是當宿之夜夢裏相見覺
寤探抱首無觸手尓乃哽咽歔欷
高聲吟詠此歌因王聞之哀慟承
免待宿也 姓名未詳
飯喫 騰味 不在 雖行往
安 久毛 不有 赤根佗
須 君之 情 志 可祢津藻
支を写ハ婢乃名ゝ乙安三赤根おゝ

忍忙心藏市さり
より礼をゝいゝ
男ゝ名東呼説云
なりやくこゝもゝ過
このごろわる意

戀支君歌二首

作者未詳 記集

比来之吾 力 寝
このごろわわ。寐ちり〳〵ゝ
功尓 申 者 乃寐
今〳〵ゝまうさゝゝ
頃者之 吾 不給 者
これごろのわる寐ちり〳〵ゝ
京兆尓 出而 将 許イこれよりも
今やこよいて〳〵ゝまうさん

ゝ心ハ心藏市さり
より礼をゝいゝ
男ゝ名東呼説云
なりやくこゝもゝ過
このごろわる意

叫哥乃心ハ熟功乃労
ゝ叙爵すゝゝれ
ハ我山比の君不寐て
力を者ゝ記ゝ
葉めて兄を勤功ハ
そゝ〳〵ゝ
ゆゝ〳〵ゝ
ばゝ〳〵ゝ
浅をゝ〳〵ゝ
これごろわる寐ちり〳〵ゝ
悪をゝしまりゝ〳〵ゝ

京兆尒こりきくみやこつかひ乃友人良賤訴詔のことをけくさくるゝ誓をし乃職負令ゐてくる漢武帝れ大初元年ゟ京兆尹を置くりこれ本名の永礒くりくゝ唐名を京兆とゝろし

太宰府 九列ゟくゝ赤し仲ゟ下を僕有小事ゟまた送粮船掾師ゟありてゟくゝ事し我七ゝ俱ふ一ゝを決を拒ゟりきなゝゟ下ゟきゟ数りきと走雖異郡ゝくゝ矣郡ふきくゝれ同船のちあゟ久ゝきゟれいまんこ

神龜年中太宰府差筑前國宗像郡之百姓宗形部津麻呂充對馬送粮船掾師也于時津麻呂詣於淳屋郡志賀村白水郎荒雄之許語曰僕有小事若疑不許歟荒雄答曰走雖異郡同船月久志篤如兄弟在於殉死豈後辭哉津麻呂曰府官差僕充對馬送粮船掾師

殉死 ゝくゝの死ゝ
ゝくゝもに死ゝこと
こゝもゝゝゝゝ
詩話 けりきし

犢菓 ゝくゝのゝ
ゝきうのこゝゝの毋
をゝくゝのゝくゝ
ゝさ

おゝゝゝのゝゝる
太宰府ゟ津先を
こゝゝきくゝれ芸雖
ゝゝきふゝりて
りしとゝくゝゟを
云呉立ゝゝのゝ

容歯衰老不堪海路故來祇候願禽相代矣於是荒雄許諾遂從彼事自肥前國松浦縣美祢良久崎發船直射對馬渡海登時忽天暗冥暴風交雨竟沉沒海中焉因斯妻子等不勝犢慕裁作此歌十首或云筑前國守山上憶良臣感妻子之哀傷述志而作之遣

白水郎妻 情進尒

おゝゝゝのゝりゝゝくゝるゝゝくゝゝゝ
ゝきくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

荒雄良奥尒 振行之

宰府ハ領ぜ第九巻二治ル国ニ守る故ニ宰府と王令に乳おうくくおおせ子のほくさこにてまりよおむやや又太宰乃帥ハ親王乃任
ニあるく 諸臣ハ大弐ハ中に任すれい帥乃子孫ハおおせ小ニハ
きまりてよめるもやや海中小浜死せるを神小祇ニ云ふ
ハ荒 雄良平将来可不来可等 餞 盛而
荒雄り妻子ちよ
よ立 雖待 来不座
ハ小ニも憶良ハ国ニ
志賀乃山ニくるか 痛 加代 荒雄 良良
又安ニよりて乃山ニ元 乃
又礼山ニこそ ハ乃 余須可乃 跡 将ニ想
をきよおおもの志 荒 雄良我去 分之 従 志賀乃安倍乃
ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃 ハ乃 日より志礼おおお
又安云大伴乃 大 浦 田沼者 不 樂
こぬハ田沼 官 許曽 指 ハ乃 遣来 情出 不
ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃

彼津九ハこち衣伏か
ま八さてつらさ
れめ荒雄ハモ人る
らて県ニハ乃
ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃
めおわさ産業
すきりめこうすわ
いふさんそ
たまつうりもこそ
又安云舟ニ暗めて
俱るう故ニ業日本
紀彦火火出見の段ニ
沖津宮時ニ崎ま
我おわさ山辺ニ住
おやの乃荒雄ら舟を新作る心

行 之 荒 雄 良
あて 渡小神 振
荒 雄良者 妻子之 産業ニ有ル 不念ニ
ハ乃ハ乃ハ乃ハ乃
ま八之 平 行 瞭 ま
乃やこせをまてこそまさこね
奥 鳥 鴨 去 之 運 者 座
たまつうりもこい舟のうりま八
也良乃 崎 守 許曽
やハ乃さきうり早く告こそ
奥 鴨 去 者
おきつ多ハしこい舟八也良乃湯
多未 盛 標 来跡 所聞
しくこさんこさうれこねり
奥 去 就 赤 羅小 介 妻 遣者
たまりやハ乃ハ乃ハ乃ハ乃を舟ニほこと
若 而 解 放 見 鴨
わりまさ人ニくとまけこ
大 船 介 小
おおおねを舟ニうくこと 副

おきつ鳥かもとふ
しかのあらをにかつきあはんやも（志賀乃荒雄尓潜将相八方）

こきくハふねをさし廻とこそ
たきゆくやあかき小舟　兄安云赤羅小舟（アカラヲブネ）ハ彩色（サイシキ）したる舟也　此うたハ西京
異説云　彼ハあかき小舟をおひゆかしむる趣也　おしおなる者の心にてよめる歌也
わか船ハ [illegible] 此うハ潜乃荒雄と志のきをしく云　おしかり溺死を
おもひし

3870
むらさきのこかたのうみにかつくとり
たまかつきいてハわかたまにせん（紫乃粉潟乃海尓潜鳥　珠潜出者吾玉尓将為）
一首　作者未詳

むらさきれこかたの
表題ニ筑前歌六首
とあるを見れハ筑前国ニ
ある海也　筑前国志摩郡ニ
紫のハ濃といふ
潟ニ潜（カツク）鳥ハ [illegible]
とのみいへり

3871
つのしまのせとのわかめハひとのともあれにしかともわかともハにきめ（角嶋之迫門乃稚海藻者人之共荒有之可杼吾共者和海藻）
一首　作者未詳

角嶋ハ [illegible] 人の
覚するわかめあれハ
荒ても和と覚し

二首　作者未詳

3872
わかゝとのえのみもりはむもゝちとり
ちとりハくれときみそきまさぬ（吾門之榎実毛利喫百千鳥　千鳥者雖来君曽不来座）

3873
わかゝとにちとりしはなくおきよおきよ
わかひとよつまひとにしらすな（吾門尓千鳥数鳴起余起余　我一夜妻人尓所知名）
一首　作者未詳

友とせんこと
わか門乃えのみ　喰（モリ）と云
仙曰百千鳥人の家に云
ハ覚えされしかりけれ
桜の実ハ秋なる趣也
もゝちとりハ百と
いふをそへて千鳥とよめり略
注百千鳥ハ [illegible] 和
わか門にちとり志はなく
仙曰志はしハ志きり
に鳴也千鳥ハ暁も鳴
方ニ成りと志らく

3874
いゆしゝをとむるかはへのにこくさの
みわかきかへりさねしこらはも（所射鹿乎認河辺之和草　身若可倍尓佐宿之児等波母）
一首　作者未詳

あくとも云此歌ハ人乃鹿を射て
そのしゝをとむるハ [illegible]
余をひとうしなはすして起ちんと云
兄安云（童蒙抄云）是ハ男のわか男を
鹿をさとる　兄安云いぬる鹿を尋る意　西京序云
ハ二葉ハ若草也やりてある
心をわかきといへりとい
へり

二首　作者未詳

琴酒を　押垂れ小野なる　奴流
久波不由　寒之毛　討夜尓　所念
くふてとひやの乃　やとしけやかも
尓　相奴　鴨

之　少　寸　尓　相　佗婆　伊呂雅世流
あゐる春べす　くもよ　ふあひねるも
少　寸四　尓　相　佗婆　伊呂雅世流
すくなきよ　ふあひ　つさいろけせる
菅　小笠　吾子奈　雅流
すか笠七日さわうるる　珠の古川
係取　替　毛　将申
をくりすてしまうさん　ねをす少
寸　尓　相奴　鴨
くるまこころ　あひねるも

わうるなけ　佐おけるやうとさと同音又日本紀ふうか
くせる事ぞとなる　ふ仰うるせるこるやや
ふ乃七つを　笠り古川をさくねきくるやや
七寶乃心をて云やや
すくなき　神うるれ
こよくふ乃きくれ
笠ふふ笠おとるる
八千ねやもきくの池
生おこるて千神て
妹とかつきてふ
ひのうるはふ笠乃
上の風　実とうる
てれるふ池て衣
祇園紀ふ池てる衣
よるりて旬ふ
神ふてれふ

豊前國歌一首　白水郎

豊國　奈流　企玖乃　奈流　之字礼乎
採　跡也　之　御　所沽　討武
けむぞや　妹り千神ねまてうん

豊後國歌一首　白水郎

紅　尓　零　而
てれるふ小池て衣
尓保比波　雖為　移　波来也毛
ふるてすそしうるめやし

能登國歌三首

傳云愚人隨爺於海底而不解鐵之沉水歟作此歌口吟爲喩也　作者未詳

階揩　熊來乃夜良尓　新羅爺隨　和之　河毛侶勿鳴爲首祢　浮出流夜登將見　和之　うきもるやとこれん

かけてくあうれかけくとおもふことく我身人のものとかして云ふ詞也　階揩　熊来酒屋尓真奴良良　さりやかまの　留奴和之　侘須比立　率而　来来麻之乎　真奴良留奴和之　きまもれとも

所聞多祢乃机之嶋能小螺　平伊拾持　都追伎破丈利早　灌尓古胡登毛義　辛鹽尓高坏

さてもくあうれかけくとおもふことく我身人のものとかして云ふ詞也　階揩　熊来酒屋尓真奴良良　さりやかまの　留奴和之　侘須比立　率而　来来麻之乎　真奴良留奴和之　きまもれとも

一説さすひそへ云ひけり

うとうねのけくさの机嶋能小螺名ふそれおい机嶋能小螺名ふそれおい

さてもくみ和名小蠃子　細螺文貝類似甲蠃而細小口有白玉之蓋

有也ニ拾遺集物名ニ
いろのみ拾ひし時は
こととせの外仙宮そこ
そくもむことろ
かつちこれかも 仙口
かつちこそみめちこそもにわもる 此ノ時ハ泣ハめちこ
こハ女兒心ほいうつ 妻ノ心 妻乃事乃自ノ女の夢乃用めちこの
さて二渡り私ハ難波
おく野ちいたりけち
乃安古大野乃名也
歟乃森經ハ萩也
江里東大野ハ本移
波郡ニこそ

越中國歌四首

作者未詳

きよふかの二上山
旋乃寿ノ渋谷ニ上
山皆花中ノ

さてそれも 乃安古
さしいこハ上前也 里
東上剌乃ノ名ハ
ちの天れ乃のこめも
一云あなのハ乃也

伊弥彦乃神乃社藍よ
山乃麓ニ坐神
の三乃ふ山乃れハ神の
布本ニこそ

今日ハちちやこと
乞食者 釋氏要覧云
善見云分衛此云乞
食僧祇云乞食分

大野路者繁道森徑之氣久登毛おおのちハしけちもりくもり
志通者徑廣計成
乃ようにみちをひろけん
渋鈴乃二上
痛跡去
措羽尓毛之御為
さよふかのふもとの
うもとをみむ

尓盛机而尓立而尓奉都
都也目豆兒乃負つつ
尓屬
やめたちもこれおも父つつ
都也身女兒乃負つつ
たやすめちこれおも

尓驚曽子生跡云
伊夜彦於能礼備
ふるもさ
霖曽保零
こさめそふる

今日良毛加
伊弥彦乃神社ふるしこそ
鹿乃皮服而角
附奈我良
鹿乃皮乃さねこそつの
為鹿述痛作歌一首

伊加古名凡乃
いこふきおのれのみ

乞食者居ニ而

施僧尼衛護令夜道業故云汾衛法集云乞食被一切憍慢故 下略

虎といふ神を虎をたゝみにさし

鹿猫之又競猫也

云々あつさゆみやつたばさみ

ひめかぶら八つたばさみと云ひ

ひめかぶらは蟇目鏑也

鳴鏑なり

さつ矢をもちて鹿まつに

鹿のきたちなげくことをいへり

わがつのはみかさのはやし

わがみゝはみすみのつぼ

わがめらはますみのかゞみ

わがつめはみゆみのゆはず

わがけらはみふでのはやし

わがかはゝみはこのかはに

わがしゝはみなますはやし

わがきもゝみなますはやし

わがみげはみしほのはやし

おいはてぬわがみひとつに

なゝへはなさくやへはなさくと

まうしはやさねまうしはやさね

さするなるべしとぞ　やへはなさくといふこと　或説林の字の心にしてはやしのはやしとする也

みまくほりてかも　鹿の耳雲壷を仰き心　わび問へは明らけれ心　わり乃ハうのをすゝ仰れ心　みとれくに成等　紙のなりひも
わり乃ハうきゝ痛華美のけりを云酒徒の心　なりそれね者典礼云六十昌者
あゝこれをくゝくを果わるわ乃つを君れ阿曽かさ西くゝくゝ
我宝もとよせくと鹿乃いつるとゝ畢竟ハ鹿乃歌さあるゝを表
乃くゝ痛ゝ者ゝも　為(左ヤテ)辮述(テヲ)痛作歌一首
をゝゝも雌波乃ハ　恐照八　乞食者
なかりまりて作り　乃小尓廬
いかにそ乃ゝまわるゝ　難麻理必居　掌河尓平
蟹完尓集るゝ亀　王
何乃尓　乞安云者の　為平尓　吾平　吾知
百尓行るゝき蟹し　跡　為年尓　吾平　吾知
おゝきゝすゝ蟹の歌　平　跡和平　吾知
て志我王れ我を　吾平　吾知
ゆゝ乃尓ん云　吾知
時ゝくわゝ和ゝを

和平　吾知　良来夜　彼毛　今受年跡　今日
わをめゝやゝ　跡　今日跡　飛鳥尓　到　雛(ニ立)　置
今日跡　飛鳥尓　到　雛(ニ立)　置
ふとゝゝすふいゝゝ　都久怒尓到
勿尓　到　雛(ニ立)　集
あるゝゝゝ　門由　桑　納
東　門由　桑
ゝんゝ乃中れ今ゝ　区　傘受例婆　尓　已曽　布毛　太志可
区　傘受例婆　尓　已曽　布毛　太志可
ておゝすれ馬ゝこゝ　久物　尓　已曽　亀　縄　波久例
久物　尓　已曽　亀　縄　波久例
牛ふこすゝ乃ゝ仁ゝ　乃　毛　武尓礼半　五百枝波伎
乃山序山乃ゝもゝ　天　光　夜　日乃異尓　千
婚れおまてゝゝ　仇比豆留夜　辛　雄尓　春
仇比豆留夜　辛　雄尓　春
さゝゝゝゝ　五　雄子　尓　春　忍　光　八
五　雄子　尓　春　忍　光　八
ゝてゝゝゝ

我の吟ゝの知ゝを
里しの一ゝ石ゝと
歌笛琴等に我像ふ
あゝすゝ乃も　伝今の居
里をゝんとゝゝんと
ゝれゝゝんとゝ云心
あゝふ　先朝の越の名
をきまふ　乃安云ゝ
にくゝゝの乃安云ゝ乃
ゝをゝゝめとゝ云
まゝゝれゝゝへ
まて作ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝも
乃安云ゝゝゝ心
蔓もゝ吟ゝ
ふこゝ鍛ゝれ半ふ

こう曳縄そくるれ　我八牛るるね瀬津乃住盤とるんとこ　ともしれ仙ひもそ　祝ーとつはれそ　楡乃木乞安云或説　小楡をろくるまく　いねえときれ　楡乃枝乞枝をこまされて　日乃久小日の氣也　さいつやさ小神乎　そつれ乞安云住吉久姫乎　すき人仙日かけ共る人心　わる服なりまわりこと　小ひくちくき相されい経　るとさとでこおの　鹿の毛牛小報生を祝」　戒めよ可申

乃始爾乎　久爾　乃　所作　頓乎今日　陶人乃　良　明日　持て　牡　尓鹽　涙　給　時賞毛　時賞毛　尓草草刈

雄渡乃小江のそつれを幸くくれ　ますき人乃住るうめを久小　いきくあすとともまま吾めろ

怕物歌三首　作者未詳

天尓有哉神樂良乃　あめ小ありやかくらの小野小ちるもみち

草刈波可尓　平立毛　ひやりそく小鶏を　領イヨリ　之涙　おきつ玉もそ　奥　涙　黄ろめ乃屋形　之門渡　神乃とわたる

魂乃佐青有　之　但　獨　人こまれさをもる君り　相有之雨　葉非尤思　所念　おもひ　おもひ

萬葉集巻第十六

真享三年丙寅六月五日書于新玉津嶋巷下手墨付三十枚　雪冷